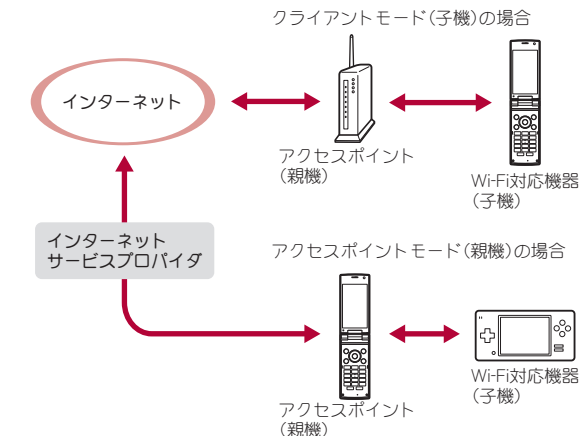
Wi-Fi

Wi-Fiを利用する

本FOMA端末はWi-Fiに対応しており、Wi-Fiのさまざまな機能を利用できます。ご家庭のアクセスポイントや公衆無線LANサービスなどに接続したり、FOMA端末をアクセスポイント（親機）にしてWi-Fi対応機器を接続したりできます。

● クライアントモードとアクセスポイントモードを同時に利用することはできません。

Bluetooth機器との電波干渉について

Bluetooth機器と無線LAN（IEEE 802.11b/g/n）は同一周波数帯（2.4GHz）を使用するため、Bluetooth機器の近辺で使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や雑音、接続不能の原因になる場合があります。また、ストリーミングデータ再生時などに通信が途切れたり音声が乱れたりすることがあります。この場合、Bluetooth機器の電源を切るか、FOMA端末や無線LANからBluetooth機器を10m以上離してください。

Bluetooth機器と無線LANの同時使用について

Bluetooth機器で音声通話中または音楽再生中に無線LANを使用した場合、通話音声または音楽再生の品質を確保するために無線LANを使用したデータ通信速度が低下したり、無線LANの接続が切れてしまうことがあります。

関連用語集

■ アクセスポイント：Wi-Fiを利用する際の接続先です。

■ AOSS：AirStation One-Touch Secure Systemの略です。Wi-Fi接続時の暗号化の設定が簡単に行える機能です。

■ ESSID：Extended Service Set Identifierの略です。Wi-Fiにおけるネットワーク識別子の1つです。ESSIDが一致するアクセスポイントと通信が可能です。

■ MACアドレス：Media Access Controlアドレスの略です。ネットワーク上で機器を識別するための固有のハードウェアアドレスです。

■ WEP：Wired Equivalent Privacyの略です。最も一般的な暗号化方式です。アクセスポイント（親機）とクライアント（子機）に共通の暗号キー（WEPキー）を設定します。設定できるWEPキーの長さは、64bitと128bitの2種類です。

■ WPA：Wi-Fi Protected Accessの略です。TKIP（Temporal Key Integrity Protocol）という暗号化プロトコルを使用した、より安全な暗号化方式です。

■ WPS：Wi-Fi Protected Setup™の略です。無線LANの業界団体Wi-Fi Alliance®が策定した無線LAN設定に関する標準規格で、対応機器どうしであれば簡単な操作のみで安全なWi-Fiネットワーク環境の構築が可能です。

アクセスポイントモードを利用する

FOMA端末をアクセスポイント（親機）にしてWi-Fi対応機器（子機）を接続し、ゲーム対戦などのサービスを利用できます。

- FOMAサービスの圏内で利用できます。ただし、通信環境やネットワークの混雑状況によっては利用できない場合があります。
- ドコモUIMカードを挿入していない場合や、FOMAサービスの解約や利用を休止している場合は利用できません。
- 海外ではアクセスポイントモードを利用できません。
- アクセスポイントモードは、mopera UなどWi-Fi接続に対応したインターネットサービスプロバイダを利用します。
- mopera Uのサービス内容については、mopera Uのホームページをご覧ください。
  http://www.mopera.net/
- アクセスポイントモード利用時のパケット通信料は、パソコン・PDAなどを接続したパケット通信料となります。データ量の多い通信を行うと通信料が高額になりますので、ご注意ください。パケット通信料および料金プランの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。
- FOMA端末はIEEE 802.11b、IEEE 802.11gまたはIEEE 802.11nの無線LAN規格に準拠しています。使用するWi-Fi対応機器の規格をあらかじめご確認ください。同じ規格に対応している場合のみ接続できます。
- フルブラウザ中はWi-Fi対応機器をFOMA端末に接続することができません。
- 接続中の状態でも、一定時間データ送受信が行われない場合や、テレビ電話や64Kデータ通信が行われた場合は接続が切断される場合があります。

IEEE 802.11nについて

- 5.2GHz／5.3GHz／5.6GHz（W52／W53／W56）には対応していません。
- MIMO（Multiple Input Multiple Output、多入力多出力）には対応していません。
- 40MHz帯域幅システム（HT40）には対応していません。

アクセスポイントモードの利用手順

- お買い上げ時は認証方式が設定されていません。無線設定で認証方式やWEPキーなどを設定してから接続することをおすすめします。

例：はじめてアクセスポイントモードを利用するとき

STEP 1　接続先（APN）を設定する ☞P.486

STEP 2　アクセスポイントモードを開始する ☞P.486

STEP 3　Wi-Fi対応機器からFOMA端末に接続する
- Wi-Fi対応機器の操作については、Wi-Fi対応機器の取扱説明書をご確認ください。
- 同時に接続できるWi-Fi対応機器は4台までです。

アクセスポイントモードの利用について設定する
<アクセスポイントモード(親機)>

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[Wi-Fi]▶[アクセスポイントモード(親機)]

- アクセスポイントモード画面が表示されます。

2 項目を選ぶ

◆ **[APモード開始]▶[はい]**
- アクセスポイントモードを開始します。

◆ **[接続中子機一覧]▶Wi-Fi対応機器を選ぶ▶各項目を設定▶[カメラ]**
- 設定できる項目は次のとおりです。
  - ■ 機器名称:機器名称を入力します。
    - 全角16文字(半角32文字)まで入力できます。
  - ■ MACアドレス:接続するWi-Fi対応機器のMACアドレスを入力します。
  - ■ MACアドレス制限時の接続:無線設定でMACアドレス制限を[許可]に設定したときに接続できるかどうかを設定します。
- Wi-Fi対応機器の追加:[カメラ]▶各項目を設定▶[カメラ]
- Wi-Fi対応機器の削除:Wi-Fi対応機器にカーソルを合わせる▶[メール]▶[はい]

◆ **[APモード停止]▶[はい]**
- Wi-Fi対応機器との接続を切断し、Wi-Fiの電源を切ります。

- アクセスポイントモードの情報表示:[カメラ]
- Wi-Fi対応機器を登録:[MENU]▶[AOSS]▶[接続開始]
  - アクセスポイントモードを開始しているときに、AOSS方式でWi-Fi対応機器を登録できます。

アクセスポイントモードの設定をする

1 アクセスポイントモード画面で[i]

2 項目を選ぶ

◆ **[無線設定]▶端末暗証番号を入力▶各項目を設定▶[カメラ]**
- 設定できる項目は次のとおりです。
  - ■ ESSID:ESSIDを入力します。
    - 半角英数字を32文字まで入力できます。
  - ■ ステルス機能:無線接続時の信号にESSIDを表示するかどうかを設定します。
  - ■ セキュリティ[接続台数制限]:認証方式を設定します。[ ]の中の数字は接続可能なWi-Fi対応機器の台数です。
  - ■ SharedKey:認証方式がWEPの場合にWEPキーを用いた認証をするかどうかを設定します。
  - ■ WEPキーID:認証方式がWEPの場合にWEPキーIDを選択します。
  - ■ WEPキー:認証方式がWEPの場合にWEPキーを入力します。
    - 半角英数字を26文字まで入力できます。
  - ■ PSKキー:認証方式がWPAの場合にPSKキーを入力します。
    - 半角英数字を64文字まで入力できます。
  - ■ 無線チャネル:使用する無線チャネルを設定します。
  - ■ 接続待ち時間:接続待ち時間を設定します。
  - ■ MACアドレス制限:MACアドレス制限時の接続を[許可]に設定しているWi-Fi対応機器のみ接続するかどうかを設定します。
  - ■ VPNパススルー:VPNパススルーについて設定します。

◆ **[接続先(APN)一覧]**
- 接続先の登録:接続先を選ぶ▶[カメラ]
  - ☑は選択、□は解除の状態です。
- 接続先の編集:接続先にカーソルを合わせる▶[MENU]▶端末暗証番号を入力▶各項目を設定▶[カメラ]
- 接続先の削除:接続先にカーソルを合わせる▶[メール]▶[はい]

◆ **[子機登録一覧]**
- Wi-Fi対応機器は10台まで登録できます。
- Wi-Fi対応機器の追加、編集、削除の操作については☞P.486

◆ **[設定リセット]▶端末暗証番号を入力▶[はい]**
- 無線設定(ESSID、セキュリティ)、子機登録、接続先(APN)をお買い上げ時の状態に戻します。

クライアントモードを利用する

ご家庭のアクセスポイントや公衆無線LANサービスなどに接続して、Wi-Fi経由でインターネットを利用することができます。

- Wi-Fi経由でｉモードの利用はできません。
- Wi-FiからFOMAのネットワークに切り替えるとパケット通信料が発生し、通信料が高額になりますのでご注意ください。また、FOMAのネットワークに切り替えた場合、自動的にWi-Fiには戻りませんのでご注意ください。

クライアントモードの利用について設定する <クライアントモード(子機)>

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[Wi-Fi]▶[クライアントモード(子機)]

- クライアントモード画面が表示されます。

2 項目を選ぶ

◆ **[接続(自動選択)]**
- 登録している優先度の高いアクセスポイントに自動的に接続します。

◆ **[新規接続先登録]▶P.487**

◆ **[接続先一覧]▶P.487**

◆ **[切断／停止]**
- アクセスポイントとの接続を切断し、Wi-Fiの電源を切ります。

- クライアントモードの情報表示：📷
  - 情報の更新：📷
- 設定リセット：ｉ▶端末暗証番号を入力▶[はい]
  - 登録したアクセスポイントをすべて削除します。

アクセスポイントを登録する

- アクセスポイントは20件まで登録できます。
- 登録方法や設定内容については、登録するアクセスポイントの取扱説明書などをあらかじめご確認ください。
- AOSS／WPS プッシュボタン方式で登録する場合は、アクセスポイントのAOSS専用ボタン／プッシュボタンを押してください。
- 一部のアクセスポイントによっては、アクセスポイントと接続したあとに通信ができない場合があります。その場合は、次の操作を行うと改善されることがあります。
  - ■ アクセスポイントのファームウェアやソフトウェアを最新にする
  - ■ アクセスポイントの詳細設定(☞P.487)でPowerSave設定を[OFF]に設定したあと再接続する

1 クライアントモード画面で[新規接続先登録]

2 登録方法を選ぶ

◆ **[AOSS]▶[OK]▶接続先名を入力▶📷▶[はい]**
- AOSS対応のアクセスポイントを登録できます。

◆ **[WPS PINコード入力方式]▶アクセスポイントを選ぶ▶表示されたPINコードをアクセスポイント側で入力▶[はい]**
- WPS対応のアクセスポイントをPINコード入力方式で登録できます。
- 再検索：MENU
- 詳細情報の表示：アクセスポイントにカーソルを合わせる▶📷
  - 一覧に戻る：📷
  - 前／次のアクセスポイントを表示：✉／ｉ

◆ **[WPS プッシュボタン方式]▶[OK]▶接続先名を入力▶📷▶[はい]**
- WPS対応のアクセスポイントをプッシュボタン方式で登録できます。

◆ **[検索登録]▶アクセスポイントを選ぶ▶各項目を設定▶📷**
- 利用可能なアクセスポイントを検索して登録できます。
- 詳細な設定をするときはMENUを押してください。
  - 簡易設定に戻る：✉▶[はい]
- 検索されたアクセスポイントがWPS対応のアクセスポイントの場合は、接続方式を選択してください。

◆ **[手動登録]▶各項目を設定▶📷**
- 詳細な設定をするときはMENUを押してください。
  - 簡易設定に戻る：✉▶[はい]

◆ **[Mzone登録]▶各項目を設定▶📷**
- 詳細な設定をするときはMENUを押してください。
  - 簡易設定に戻る：✉▶[はい]

アクセスポイントを編集する

1 クライアントモード画面で[接続先一覧]

2 アクセスポイントにカーソルを合わせる▶[カメラ]▶各項目を設定▶[カメラ]

- 詳細な設定をするときは[MENU]を押してください。
  - ・簡易設定に戻る：[メール]▶[はい]
- アクセスポイントとの接続／切断：アクセスポイントを選ぶ

■ 接続先一覧画面のサブメニュー操作

[接続先新規作成]▶登録方法を選ぶ
- 登録方法の詳細については☞P.487

[設定情報表示]

[設定情報編集]▶各項目を設定▶[カメラ]

[削除]▶[はい]

[優先順位変更]▶移動先にカーソルを合わせる▶[カメラ]
- 1つ上／下へ移動：[メール]／[i]

プリンタ送信

プリンタに画像を送信する

Wi-Fiを利用してセイコーエプソン製無線LAN対応プリンターにJPEG画像／GIF画像をワイヤレスで送信し、印刷することができます。

- あらかじめ、FOMA端末とプリンタを同じアクセスポイントに接続してください。

1 ノーマルメニューで[データBOX]▶[マイピクチャ]

2 静止画にカーソルを合わせる▶[MENU]▶[データ送信]▶[プリンタ送信]

- プリンタを検索し、最大5件まで表示します。

3 プリンタを選ぶ▶[i]

- 選択したプリンタから印刷されます。
- 印刷設定：[MENU]▶各項目を設定▶[カメラ]
- プリンタを再検索：[カメラ]

DLNA対応機器を利用する

パソコンやテレビなどのDLNA対応機器とFOMA端末を家庭内でWi-Fi接続して、保存されている画像や動画、音楽データを共有できる機能です。

- 共有できるファイルの種類と保存先は次のとおりです。

ファイルの種類	形　式	保存先（本体）	保存先（microSD）
静止画	JPEG	マイピクチャのカメラ、iモード、外部取得データ、自動お預かり、ユーザフォルダ	インポートフォルダ、マイピクチャのカメラフォルダxxx、その他静止画、ユーザフォルダ
動画	WMV、MP4、3GP	iモーション・ムービーのカメラ、iモード、外部取得データ、ユーザフォルダ	インポートフォルダ、iモーション・ムービーの動画（QVGA以下）、動画（その他）
音楽データ	WMA、MP3、MP4、3GP	－	インポートフォルダ

- 最大1000件まで共有できます。
- あらかじめ、サーバ設定（☞P.490）の接続アクセスポイント設定と共有フォルダ設定を設定しておいてください。
- DLNA対応機器の操作については、DLNA対応機器の取扱説明書をご確認ください。
- シャープ製の液晶テレビ「AQUOS」と接続した場合、SH-01Cで撮影した動画を再生できます。画像サイズが「フルHD：1920×1080」（画質選択を[ファイン]に設定して撮影した場合）、「HD：1280×720」、「FWVGA：864×480」、「VGA：640×480」の動画を再生できます。
  対応機器などの詳細については「ケータイdaSH」をご覧ください。
  http://www.sharp.co.jp/k-tai/

- 正常に接続できない場合は、次のことを確認してください。
  - ■ アクセスポイントの設定
  - ■ Wi-Fi接続の状態
  - ■ 接続するDLNA対応機器のネットワークの設定
  - ■ DLNA対応機器のセキュリティソフト／ファイアウォールの設定
  - ■ FOMA端末のホームネットワーク設定
- アクセスポイントやご使用の環境により、正常に接続できなかったり、使用中に接続が切断される場合があります。その場合は、一度終了し、再度接続してください。

FOMA端末内のファイルをDLNA対応機器で再生する<ホームネットワーク送信>

例：iモーションを再生するとき

1 ノーマルメニューで[データBOX]▶[iモーション・ムービー]

2 iモーションにカーソルを合わせる▶MENU▶[データ送信]▶[ホームネットワーク送信]

3 DLNA対応機器を選ぶ
- 一時停止：◉
- 停止：[i]

- 再配布不可のデータ、およびWMDRMにより保護されたデータは共有できません。

FOMA端末からDLNA対応機器内のファイルを再生する<ホームネットワーク>

1 ノーマルメニューで[データBOX]▶[ホームネットワーク]

2 DLNA対応機器を選ぶ

3 ファイルを選ぶ

■ ファイル一覧画面のサブメニュー操作

[表示切替]	☞P.343
[情報表示]	
[ダウンロード]	
▶[1件ダウンロード]▶[はい]	
▶[選択ダウンロード]▶ファイルを選ぶ▶[📷]▶保存先を選ぶ▶[はい]	
[ストリーミング再生]	
[ソート]▶ソート方法を選ぶ	
[参照先切替]	
▶[本体]	
▶[microSD]	
▶[ホームネットワーク]	
[タイトル検索]▶[検索語：<未設定>]▶検索文字列を入力▶[📷] ● 履歴を利用するときは履歴の番号を選択します。	

[ダウンロード]について
- ダウンロードしたデータはmicroSDカードのインポートフォルダに保存されます。

[タイトル検索]について
- 全角25文字（半角50文字）まで入力できます。
- 検索履歴が最新のものから5件まで記憶されます。

DLNA対応機器の利用について設定する
<ホームネットワーク設定>

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[Wi-Fi]▶[ホームネットワーク設定]

2 項目を選ぶ

◆ **[サーバ設定]▶項目を選ぶ**
- 設定できる項目は次のとおりです。
  - ■ 共有開始:DLNA対応機器からFOMA端末にアクセスできる状態にします。
  - ■ 機器名称設定:機器名称を確認できます。
    - 編集する場合は全角20文字(半角40文字)まで入力できます。
  - ■ 接続アクセスポイント設定:接続するアクセスポイントの設定や変更ができます。
  - ■ 共有フォルダ設定:DLNA対応機器と共有するフォルダを設定できます。

◆ **[接続機器設定]▶項目を選ぶ**
- 設定できる項目は次のとおりです。
  - ■ サーバ機器設定:DLNA対応パソコンなどからファイルを受信する場合などに、DLNA対応パソコンをサーバ機器として設定します。
  - ■ レンダラー機器設定:DLNA対応テレビなどでファイルを再生する場合などに、DLNA対応テレビをレンダラー機器として設定します。